



～ 大学入学共通テスト!! ～

教育界はいま激動の時代を迎えています。とりわけ現高校1年生へは例年以上の注目が集まっています。それは新たな大学入試の施策の多くが、最初に実施される学年だからです。

これまで行われてきた大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト」は、民間の英語の資格・検定試験を活用したり、これまでの調査書の様式を変更して「多面的・総合的な評価」をしていくことなどが決まっています。ただそれだけに留まらず、新たな大学入試の変化は、多岐にわたっているため、各大学及び高校もその対応を具体的にどのようにしていくか、試行錯誤をしているのが現状です。

そもそもなぜこのような大学入試改革が必要なのかということ「国際化、情報化の急速な進展により、社会構造が急速かつ大きく変化していること」また「知識基盤社会（新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）の中で、新たな価値を創造していく力を育てることが必要」などと言われています。



このような変革に対応するため、浦添高校においても「思考力・判断力・表現力」を育成するためにアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開をしたり、講演会及び行事等での気付きや成長をストックするためのファイルを作成するなど、今できることを一生懸命取り組んでいるところです。

今後さらに様々な対応が求められてくると思いますが、国の動向を注視し、県や大学等と連携しながらしっかり対策を練っていきたいと考えております。生徒諸君もたくさんの情報入手するよう心がけてください。校長

～本読んでる?～

図書館に足を運んできました。司書の與那嶺愛先生によると浦高の昨年度の貸出冊数は合計10,057冊だそうです。一人平均8.4冊読んでいて、学年では1年生がトップの8.8冊だそうです。ちなみに今年度6月20日現在で、最も多く本を読んでいる生徒トップ10の9名は1年生で、残り1名は3年生です。

浦高の特徴の一つとして朝読を取り入れています。本県の高校で朝読をやっているのは、たぶん浦高だけではないでしょうか。そのねらいとしては「本に親しむ」「静寂を保ち集中する」等いろいろあります。ぜひ有意義な時間にしたいものです。

最近読んだ本で私のおすすめは佐藤愛子著「九十歳。何がめでたい」です。とにかく痛快です。吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」は哲学です。

私は本を読むのが遅い。致命的なのは本を読んでも眠くなる。でも、すてきな本に出会えたときは何物にも代えがたい感動がある。そして、心が豊かになる。校長

*** 校長雑感 ***

去った16日(土)ホテルロイヤルオリオンで浦添高校同窓会総会が行われた。私も招待され、浦添高校の現状を報告した。同窓生のみなさんは生徒の活躍を本当に喜んでくれて、9期生一同からは金一封の目録までいただいた。「浦高のために」を合い言葉に同窓生は応援してくれている。留学の援助やファイルも生徒全員に毎年いただいている。感謝、感謝である。

～～～ 時の言葉 ～～～

多くの人に幸せや喜びを与えていく。それ以上に、尊くて素晴らしいものなどない。



ベートーヴェン (作曲家)

20代で聴覚を失いながらも、数多くの傑作を残したベートーヴェン。彼の音楽は後生に多大な影響を与え、世界中の人々に愛され、歓喜を与え続けている。見返りを求めないボランティア精神こそが、世の中で最も尊いものだと思います。校長

～ 突然の訪問者 ～

先日、校長室のドアをノックする音がして「卒業生です」という声がした。「どうぞ!」と言ったら「やったー!」と言って入ってきたのは、去った3月に卒業した生徒達である。

この女子大生2名は「なつかしいなー」と言い、いろんな話に花が咲いた。浦高の制服の話、大学行事の話、勉強の話、友達の話、将来の職業の話・・・etc

話が尽きることなく時間が過ぎていった。本当に楽しそうで、大学生活が充実しているんだろうなと感じた。ともあれ、卒業生が校長室まで訪ねてきてくれるということに、この上なく幸せを感じた次第である。校長